

石川・昭和町遺跡

しょうわまち

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| 所在地 | 石川県金沢市昭和町 |
| 調査期間 | 一 一九九四年（平6）四月～二月、二 一九九五年五月～八月 |
| 発掘機関 | 金沢市教育委員会 |
| 調査担当者 | 楠 正勝・増山 仁 |
| 遺跡の種類 | 城下町跡（武家屋敷・町屋地区） |
| 遺跡の年代 | 弥生時代後期、江戸時代 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 昭和町遺跡は金沢城下町北西端、JR金沢駅東口の南側に位置す |



(金沢)

江戸時代の絵図によると、調査地は武家屋敷地と町屋に該当する。武家地は三〇〇〇石ないし四〇〇〇石を

（金沢駅東口）の南側に位置する弥生時代と江戸時代の複合遺跡である。駅前の土地整理事業に伴い、三次にわたる発掘調査を実施した。

昭和町貴跡は金尺城下町比西端、丁々金尺沢東口の南側に位置す

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡の種類
城下町跡（武家屋敷・町屋地区）

貴林の重頭 戒、丁亦（武家屋敷）

4 調査担当者 楠正勝・増山仁

3 発掘機関
五年五月八日

九五年五月八日

二
調査期間
一一九九四年(平6)四月一三月、二一五

ラスの下屋敷地か譲地で、町屋は地子町となる。

り、火災（折違焼き・延宝五年（一六七七））の痕跡を確認した。木簡は、第二次調査において土坑SK三六、落ち込みSX〇三、溝SD一二から各一点、及び遺構外から二点の計五点、第三次調査においてSK一四から一点、以上総計六点が出土した。

土坑SK三六は長径一・五m深さ一・四mを測り、円形を呈する町屋の屋敷地裏手にある一九世紀前半のゴミ坑である。同様のゴミ坑は多数見られ、屋敷地内の空地に次々と掘られたゴミ坑の一つと考えられる。落ち込みSX〇三は自然の窪地で、弥生土器も出土している。

合遺跡である。駄前の土地区画整理事業に伴い、三次にわたる発掘調査を実施した。

SD-2は、幅は検出面で70cm、底面で30cm、深さは約10cmを測る。屋敷地（町屋部分）を区画する溝と考えられる。遺構の時期を示す遺物は出土していないが、関連する遺構から推察すると、一七世紀後半の遺構と考えられる。

SK—四は町屋の屋敷地前面にある一七世紀後半の土坑で、長辺約二m短辺一・五m、深さ一mを測り、隅丸長方形を呈する。

一 第一次調査

セキリ六

(1) 「木や
セ [焼印]
〔五〕 りゆ
〔川カ〕」

径129×厚16 061

セキリ六

(2) 寿」

径102×厚6 061

セキリ六

(3) 「匚匚」

径121×厚7 061

遺構外

(4) 「。河北」 弥様
「星野」
筐□□

211×59×11 011

(5) •「。十」
•「。十」

108×40×9 011

2005年出土の木簡

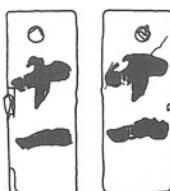
(1)は円形を呈する酒樽の蓋板材である。「木や」は文化八年(一



二(1)



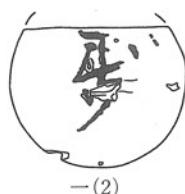
-(4)



-(5)



-(1)



-(2)



-(3)

八一二）の『金沢町名帳』（金沢市立玉川図書館蔵）に酒造業を営む屋号名として確認でき、「清瀧川」の銘柄をもつ。（2）（3）も蓋板である。（4）は長方形を呈する付札状の木簡で、上部に小孔があけてある。

二 第三次調査

(1)

十一□
八百迄
包
〔叢
カ〕

径378×厚13 061

2 1 所在地 石川県金沢市木の新保七番丁・堀川町・北安江町
3 調査期間 一 一九九四年（平6）五月～一二月、二 一九

九五年四月～一二月

4 発掘機関 金沢市教育委員会
5 調査担当者 増山 仁・前田雪恵

6 遺跡の種類 集落跡・水田跡
7 遺跡の年代 江戸時代

8 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大型の桶か樽の蓋板材で、文字の左右の材が欠損している。裏面に刃物傷が多数観察されることから、俎板として再利用されたものと考えられる。

9 関係文献

金沢市埋蔵文化財センター『金沢市昭和町遺跡I』（金沢市文化財紀要一七一、二〇〇一年）

同『金沢市昭和町遺跡II』（金沢市文化財紀要一九四、二〇〇二年）

（楠 正勝）



（金沢）

石川・木ノ新保遺跡

木ノ新保遺跡は、金沢市北部を流れる浅野川の南岸近くの微高地に所在する。ここで紹介するのは金沢駅東地区土地整理事業に伴って実施した第一・三次調査である。今回の調査区の南西を石川県立埋蔵文化財センターが一九九三年に発掘しており（第一次調査）、また、遺跡の北東にある久昌寺遺跡と